Nara National Museum

# 奈良国立博物館だより

第93号

平成27年 4・5・6月

土偶（山形県遊佐町杉沢遺跡出土） 当館

**特別展**

まぼろしの久能寺経に出会う

## 平安古経展

4月7日（火）～5月17日（日）
東・西新館

**特別展**

開館120年記念特別展

## 白　鳳

―花ひらく仏教美術―

7月18日（土）～
9月23日（水・祝）
東・西新館

**特別陳列**

## 名匠三代

―木内喜八・半古・省古の木工芸―

6月2日（火）～28日（日）
西新館

**名品展**

## 珠玉の仏教美術

～6月28日（日）
西新館

## 中国古代青銅器

通期開催・青銅器館

特別展

4月7日(火)～5月17日(日)

## まぼろしの久能寺経に出会う

# 平安古経展

「平安古経」という言葉からは、どのようなイメージが思い浮かべられるでしょうか。一つには、平安貴族文化が表出した、豪華な装飾料紙、金銀にきらめく文字、等々。もう一つには、末法思想を背景にした埋納経、これは藤原道長のものが有名ですが、そうした法華経などが浮かぶでしょうか。それらは平安古経の重要な一面ですが、今回の展覧会では、書写された数としては最も多かったはずの、普通の紙に墨で経文を書いた写経や、わが国では平安時代後半に登場した印刷経典、埋納経の一類型として平安時代に登場した瓦経や銅板経などもあわせて展示し、平安時代経典文化の全体を概観できるようにいたしました。

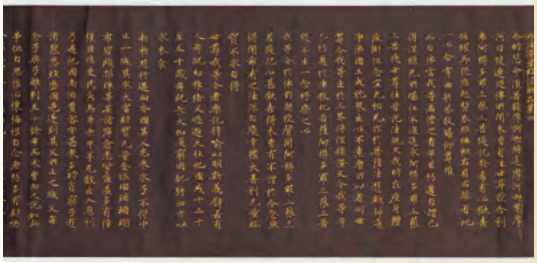
さて、さきほど大方がイメージされたであろう豪華絢爛な写経は、平安時代後半から数多くつくられるようになります。今回、その中でも著名なものとして、久能寺経を展示します。永治元年(一一四一)頃に鳥羽上皇やその周辺の人々が結縁して書写された久能寺経は、長く駿河の久能寺に伝来しましたが、現在は諸所に分蔵されています。このうち当初の表紙と見返しを残す四巻は、保存状態に問題があったため、長い間一般の目に触れることがありませんでしたが、近年の保存修理によって往時の姿を取り戻し、このたび当館でお披露目する運びとなりました。

本展は、平安時代に特有の優しい筆致の文字たちを愛で、料紙装飾を楽しみ、経典文化の一端をうかがう、非常に良い機会になることと確信いたします。

◎法華経（一品経）〈久能寺経〉従地涌出品第十五　（個人蔵）

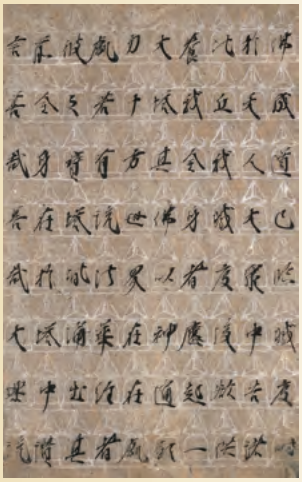
◎金光明最勝王経註釈 巻第二・巻第四断簡　（京都国立博物館）

◎法華経（一品経）〈久能寺経〉普賢菩薩勧発品第二十八　（個人蔵）

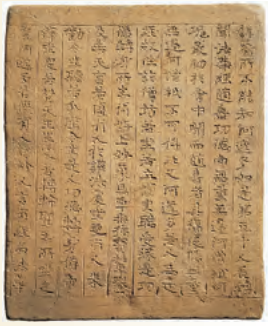


法華経 巻第二（紫紙金字）（当館）

◉法華経 序品　（宝厳寺）



戸隠切（写経手鑑「紫の水」より）（当館）



瓦経（飯盛山経塚出土）（当館）

華厳経 巻第五十（藍紙）（当館）

特別陳列

6月2日(火)～28日(日)

# 名匠三代

## ―木内喜八・半古・省古の木工芸―

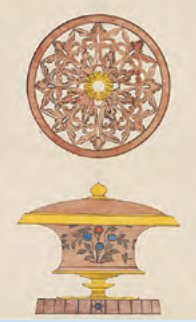
木内喜八(一八二七～一九〇二)、半古(一八五五～一九三三)、省古(一八八二～一九六一)は、幕末から昭和にかけて三代にわたり、江戸・東京で活躍した木工芸の作家です。喜八は、指物、象嵌彫刻などに長け、内国勧業博覧会にて受賞するなどの活躍をみせました。喜八の甥で後に養子となった半古は、養父の技を継ぎ、各種博覧会で受賞を重ねるとともに、正倉院御物整理掛に出仕し、正倉院宝物の修補や模造に腕を振るいました。半古の次子である省古は、若き日に正倉院御物整理掛に出仕した体験を元に、父祖からの技を磨き、万国博覧会で最高賞を連続受賞するなど高い評価を受けました。このように木内家が三代にわたって築き上げた名声は近代工芸史上、揺るぎないものがあります。

当館では昨年省古の孫に当たる岡井一子氏より木内家三代の作品及び資料二十五件の寄贈を受けました。本展覧会では若干の作品を加え、これらをはじめて公開いたします。

澗声印蒔絵肉池　木内喜八作

花文木画合子　木内省古作

和歌色紙象嵌硯箱　木内半古作


図案（香炉）　木内省古筆

瓜文手箱　木内省古作　すべて当館蔵

特別展

開館一二〇年記念特別展

7月18日(土)～9月23日(水・祝)

# 白鳳

## ―花ひらく仏教美術―

「飛鳥・白鳳・天平」という時代区分は、おもに文化の特徴で設定されたもので、明治時代から美術史や考古学で使われてきました。このうち白鳳の期間は、大化の改新(六四五年)の頃から平城京遷都(七一〇年)までのおよそ六十余年をさすと考えられています。この時期は、天皇を中心とした国づくりが本格化し、全国各地で寺が建立され、仏教文化が花開きました。新しい時代や文化の息吹を象徴するかのように、この時期の仏像はみずみずしく、時には愛くるしささえ感じさせる独特の雰囲気があります。日本の仏教文化の春、一斉に開花したすばらしい美術作品の粋を集めてこの特別展を開催いたします。

奈良国立博物館は明治二十八年(一八九五)に開館し、今年で百二十年を迎えます。本展ではこれを記念して、当館ならではの空前の規模で白鳳美術の全容を紹介いたします。この機会にぜひ白鳳美術の魅力をお楽しみ下さい。

◉聖観音菩薩立像（薬師寺）

◉仏頭（興福寺）

◉法華説相図（長谷寺）

◉阿弥陀三尊像（伝橘夫人念持仏）（法隆寺）

※会期中展示替えがあります。

話題

# 白鳳文化の故郷

内藤　栄（当館学芸部長）

上淀廃寺（左側は三基の塔の址、右は金堂址）

七月十八日から九月二十三日まで開催される、開館一二〇年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」展の開幕まで、早いものであと三ヶ月になろうとしている。特別展の準備で一番楽しいのは、作品や資料を求めて所蔵先を訪ねて調査をすることだろう。白鳳時代が前の飛鳥時代と大きく変わる点は、今日に遺る作品や遺跡の数が多いだけではなく、日本の各地に及んでいることにある。『日本書紀』によれば、飛鳥時代の六二四年の全国の寺院数は四十六ヶ寺であったが、六十年余り後の白鳳時代の六九二年には五百四十五ヶ寺が存在したという。ざっと十倍以上である。飛鳥時代の寺院は基本的に飛鳥や難波を中心とした近畿に分布しているのに対し、白鳳時代にまで歴史がさかのぼる寺院や遺跡は、関東から九州にまで広く分布している。金銅仏や瓦など白鳳期の作品にも同様のことが言え、我々の調査地域も広範囲に及んだ。その分布状況は次の奈良時代と比較しても遜色ないほどの規模であり、いかに白鳳時代における造寺・造仏活動が活発であったかがうかがえる。展覧会名の副題に「花ひらく仏教美術」と付けたのも、日本の仏教美術が春を迎え、一斉に芽吹いたイメージを盛り込みたかったのと、白鳳仏の愛らしい表情が、また春を感じさせたからである。

調査を続けるうちに、白鳳期の遺跡や作品は全国的に分布しているとはいえ、濃淡があることに気付き始めた。〝濃い〟地域は、鳥取県、滋賀県、大阪府、そして奈良県の飛鳥である。大阪と飛鳥、及び滋賀は都が築かれた場所であるから当然として、鳥取はどのような理由が考えられるだろうか。

鳥取県には二十五年ほど前に壁画の断片や塑像片が発掘されて有名となった上淀廃寺（写真）をはじめ、石造建造物の遺構らしき岡益の石堂、斎尾廃寺、大御堂廃寺、大寺廃寺などの白鳳寺院の遺構が集中している。山陰を代表する霊峰大山の麓にある大山寺には白鳳仏が伝わり、隣の島根県の鰐淵寺や法王寺にも白鳳仏が守り伝えられている（いずれも「白鳳展」に出陳予定）。上淀廃寺や島根県の北新造院跡では、朝鮮半島の百済で用いられた建物の基壇を作る工法である瓦積基壇が用いられており、この地域に朝鮮半島の文化がダイレクトに伝わってきたことを物語っている。白鳳期の文化が朝鮮半島の文化からの影響を強く受けていることは言うまでもないが、鳥取は特にその影響が色濃い地域であったようだ。朝鮮半島と日本海をはさんで対面する位置関係が、この地に白鳳文化を花咲かせたのであろう。ただし、鳥取の白鳳文化はけっして地方的な文化に留まるものではなく、奈良とも強いつながりを持っていた。大山寺の銅造菩薩立像は法隆寺伝来の銅造菩薩立像（東京国立博物館所蔵、法隆寺献納宝物）と瓜二つと言って良いほどに似ており、また斎尾廃寺には法隆寺再建期のものと同じ文様瓦が用いられている。高度な水準の白鳳文化がこの地に花ひらいたことがうかがえる。

一方、滋賀県は天智天皇によって近江宮が築かれた大津市を中心に白鳳文化が栄えた。近江宮の周囲には寺院が造営されたが、その代表が南滋賀廃寺、穴太廃寺、崇福寺である。南滋賀廃寺はかつて錦寺と呼ばれた大寺院であったと推定されているが、現在は塔心礎などの礎石を残すのみである。その伽藍配置は、天智天皇が飛鳥に建立した川原寺のそれと近いと推定されている。ちなみに、天智天皇が母の斉明天皇のために大宰府に建立した観世音寺もこの伽藍形式であったと考えられており、この三ヶ寺は兄弟関係にあったらしい。南滋賀廃寺からは、横から見た蓮華をあしらった独特の隅木蓋瓦が発見されているほか、百済の山水文磚を見るかのような山岳文の鬼瓦が出土している。また、最近当館の所蔵となった、滋賀県・八島廃寺出土の鬼瓦には人面が表されているが、これは朝鮮半島の新羅の人面付き鴟尾を思い起こさせる。『日本書紀』によれば、白村江の戦い以降、朝鮮半島から数多くの人々が渡来し、滋賀県などに移住したという。この地域にも鳥取と同様の文化が根付いていた可能性があろう。ちなみに、近江宮跡周辺の寺院からも瓦積基壇の遺構が発見されている。

わが国古代の国際文化を象徴する文化財は、シルクロードの終着駅とも称される正倉院宝物であろう。宝物には遣唐使によってもたらされた数多くの将来品が含まれるだけでなく、国産の品にも大陸からの影響が濃厚に見られる。しかし、白鳳時代は朝鮮半島から人が移住するというダイレクトな形で日本が大陸の文化から影響を受けた時代であった。人は若い時代に周囲から多くのことを吸収し学ぶ。白鳳時代はまさに日本の仏教美術にとって青春期ともいうべき時代であった。

◉薬師如来坐像(当館)

◎文殊菩薩像(当館)

◉日本書紀第十残巻(当館)

◎大般若経厨子(当館)

瓦塔(当館)

# 出陳一覧

## 名品展 珠玉の仏教美術

西新館 ～6月28日(日)

### 【彫刻】

◉薬師如来坐像　当館
◉薬師如来立像　元興寺
◎観音菩薩立像　観心寺
◎如意輪観音菩薩坐像　当館
◎馬頭観音菩薩立像　浄瑠璃寺
◎多聞天立像　当館
　伽藍神立像　当館
◉法相六祖坐像〔伝行賀〕　興福寺

### 【絵画】

《～4月19日(日)》

**密教画**

◉両界曼荼羅(子島曼荼羅)　子嶋寺
◎大仏頂曼荼羅　当館
◎一字金輪曼荼羅　当館
◎一字金輪曼荼羅　南法華寺
　仏眼曼荼羅　松尾寺
◎紅玻璃阿弥陀像　長命寺
◎文殊菩薩像　西大寺
◎虚空蔵菩薩像　当館
　普賢延命菩薩像　細見美術財団
◎不動明王二童子像　瑠璃寺
◎五大尊像　観音寺
　愛染明王像　個人蔵
　両頭愛染明王像　当館
◎十二天像のうち梵天・帝釈天　聖衆来迎寺

《4月21日(火)～5月24日(日)》

**祖師と縁起絵**

◎聖徳太子孝養像　観音寺
◎聖徳太子勝鬘経講讃図　法隆寺
　聖徳太子勝鬘経講讃図　宝厳寺
◎聖徳太子絵伝　第一～四幅　橘寺
　行基菩薩童形像　華林寺
　行基菩薩像　個人蔵
◎行基菩薩行状絵　家原寺
　小野篁・満米上人像　金剛山寺
◎矢田地蔵縁起　金剛山寺

《5月26日(火)～6月28日(日)》

**絵師と絵仏師**

◎無本覚心像　覚慧筆　興国寺
◎文殊菩薩像　文観筆　当館
　羅漢図　陸仲淵筆　能満院
◎十六羅漢像　良詮筆　建仁寺
◎地蔵十王図　陸信忠筆　永源寺
◎十王図　伝藤原行光筆　二尊院
◎当麻寺縁起　巻下
　土佐光茂・芝琳賢筆　當麻寺
◉山水図(水色襲光図)　伝周文筆　当館
　渡唐天神像　近衛信尹筆　当館
　不動明王像　湛海筆　千手院
　山越阿弥陀図模写　横山大観筆　当館
　阿弥陀三尊像模写　横山大観筆　当館
　吉祥天立像模写　横山大観筆　当館
　武蔵野図　横山大観筆　当館
　瑞光　横山大観筆　当館

### 【書跡】

《～4月19日(日)》

　法集経巻第三〈五月一日経〉　当館
◉金光明最勝王経(紫紙金字)　当館
◎中阿含経巻第九〈善光朱印経〉　当館
◉法華経(一品経)　長谷寺
　無量義経　禅林寺
　熾盛光仏頂大威徳銷災吉祥陀羅尼経　上之坊
　焚薪〈宋版一切経〉　当館
◎大般若経巻第八十四〈宋版一切経〉　長谷寺
　華厳経巻第十五〈春日版〉　当館
　大般若経巻第三百六十五〈五山版〉　当館

《4月21日(火)～5月24日(日)》

　華手経　当館
◉金光明最勝王経(紫紙金字)　当館
　大般若経巻第五百八十八〈魚養経〉　当館
◉法華経(一品経)　長谷寺
　毘尼母経巻第五〈足利尊氏願経〉　当館
◉日本書紀巻第十残巻　当館
　造仏所作物帳　当館
◎造東大寺司請経牒　当館
◉太政官給公験牒　園城寺
　吉水院坊領証文紛失状　吉水神社

《5月26日(火)～6月28日(日)》

◎大般若経巻第二百四十六〈長屋王願経〉　瑞光寺
　大般若経巻第二百五〈永恩具経〉　当館
◉金光明最勝王経(紫紙金字)　当館
　如来不思議境界経〈中尊寺経〉　当館
◎金光明最勝王経　巻第二残巻　当館
◎弘法大師二十五箇条遺告　当館
◎弘法大師御勘文　当館
◎伝教大師求法書等　当館
◎慈覚大師伝　三千院
　東大寺注進状案
　(遠江国条里坪付帳断簡紙背)　当館

### 【工芸】

《～4月19日(日)》

　舎利容器　個人蔵
　棺形舎利容器　当館
　宝篋印塔　当館
　蓮台形舎利容器　当館
　火焔宝珠形舎利容器　当館
　火焔宝珠形舎利容器　個人蔵
　火焔宝珠嵌装舎利厨子　当館
◎密観宝珠嵌装舎利厨子　般若寺
　宝篋印塔嵌装舎利厨子　福田寺
◎五輪塔嵌装舎利厨子　不退寺
　獅子座火焔宝珠形舎利容器　金剛寺
　百万塔　個人蔵
　百万塔　個人蔵
　三重小塔　当館
◎宝相華唐草文透彫経筒　万徳寺
　経筒　施福寺
◎大般若経厨子　当館
　散蓮華蝶文螺鈿卓　当館
◉牛皮華鬘(知号・和号)　当館
◎刺繍三味耶幡　当館
◎三具足　聖衆来迎寺
　柄香炉　当館
◉宝相華文透彫華籠　神照寺
◎刺繍種子両界曼荼羅図　太山寺
　刺繍阿弥陀如来来迎図　長岳寺
　刺繍釈迦三尊来迎図　真正極楽寺
　独鈷杵　当館
　三鈷杵　当館
　五鈷杵　当館
　宝珠杵　当館
　五鈷鈴　当館
　五鈷鈴　当館
　金剛盤　当館
　一面器　当館

《4月21日(火)～5月24日(日)》

　舎利容器　個人蔵
　棺形舎利容器　当館

蓮台形舎利容器　当館
火焔宝珠形舎利容器　当館
火焔宝珠形舎利容器　個人蔵
宝篋印塔　当館
舎利厨子　施福寺
舎利厨子　性海寺
◎首懸馱都種子曼荼羅厨子　当館
密観宝珠嵌装舎利厨子　当館
百万塔　個人蔵
百万塔　個人蔵
三重小塔　当館
◎宝相華唐草文透彫経筒　万徳寺
経筒　施福寺
◎蓮池蒔絵経箱　文化庁
◎大般若経厨子　当館
●牛皮華鬘（登号・呂号）　当館
◎刺繍三昧耶幡　当館
彩絵厨子　個人蔵
刺繍法然上人絵伝　一心寺
三鈷杵　当館
三鈷杵　松尾寺
五鈷杵　施福寺
鬼面五鈷杵　個人蔵
鬼面五鈷杵　長谷寺
種子五鈷鈴　当館
種子五鈷鈴　当館
◎五鈷三昧耶鈴　金峯山寺
五鈷三昧耶鈴　長谷寺
九頭龍鈴　長谷寺

《5月26日(火)～6月28日(日)》

二月堂食堂机模造　当館
唐草文瓶掛　北村久齋作　当館
蒔絵螺鈿乱箱　北村大通作　当館
玳瑁螺鈿花形盤　北村昭斎作　当館
倶利伽羅龍蒔絵経箱復元模造　北村昭斎作　当館
黒柿両面厨子模造　竹内碧外作　当館
紫檀金銀絵書几模造　坂本曲齋（二代）作　当館
子日目利箒模造　森川杜園作　当館
子日手辛鋤模造　森川杜園作　当館
◎十一面観音懸仏　長谷寺
十一面観音懸仏　当館
五尊懸仏　当館
◎熊野十二社権現御正体　当館
◎熊野十二社権現御正体　細見美術財団
布薩形水瓶　当館
華籠　性海寺
牡丹尾長鳥文盆　金地院
◎香盆　聖衆来迎寺
金山寺形香炉　長谷寺
刺繍阿弥陀如来像　個人蔵
刺繍釈迦阿弥陀二尊像　当館
刺繍阿弥陀三尊来迎図　中宮寺
三鈷杵　当館
三鈷杵　松尾寺
五鈷杵　施福寺
鬼面五鈷杵　個人蔵
鬼面五鈷杵　長谷寺
種子五鈷鈴　当館
種子五鈷鈴　当館
◎五鈷三昧耶鈴　金峯山寺
五鈷三昧耶鈴　長谷寺
九頭龍鈴　長谷寺

## 【考古】

土偶〔山形県杉沢遺跡出土〕　当館
注口土器ほか（小野コレクション）〔青森・岩手県出土〕　当館
銅鐸〔奈良県山町出土〕　当館
銅鐸〔静岡県浜松市釣荒神山出土〕　当館
内行花文鏡〔奈良県鶯塚古墳出土〕　当館
◎銅鏡〔奈良県天神山古墳出土〕　当館
双鳳文杏葉・忍冬唐草文鏡板〔奈良県珠城山3号墳出土〕　当館

〈4月21日～6月28日〉

装飾付子持台付壺　当館
軒丸瓦〔横井廃寺出土〕　当館
軒丸瓦〔奈良県山田寺跡出土〕　当館
軒丸瓦〔奈良県川原寺出土〕　当館
軒丸瓦・軒平瓦〔奈良県山村廃寺出土〕　当館
隅木蓋瓦〔和歌山県上野廃寺出土〕　当館
鬼身文鬼瓦〔奈良県薬師寺出土〕　京都国立博物館

〈5月26日～6月28日〉

鬼面文鬼瓦〔奈良県中山町出土〕　当館

〈5月26日～6月28日〉

◎山城忌寸真作墓誌　当館
行基舎利瓶残欠　当館
◎佐井寺僧道薬墓出土品（墓誌・骨壺）　当館
＊須恵器骨蔵器・外容器・鉄板〔奈良県五條市出屋敷遺跡出土〕　五條市教育委員会

〈3月17日～5月24日〉

◎青磁牡丹唐草文深鉢〔奈良県正暦寺出土〕　正暦寺
◎銅製宝塔形経筒（永久四年銘）・銅製如来像〔福岡県出土〕　当館
滑石製宝塔形経筒　当館
泥塔経　当館
●粟原寺伏鉢　談山神社
瓦塔〔静岡県浜松市（旧三ヶ日町）出土〕　当館
◎元興寺塔址土壇出土品　元興寺

＊は考古資料相互活用促進事業による出品
※●＝国宝、◎＝重要文化財

名品展

# 中国古代青銅器

（坂本コレクション）　青銅器館

中国古代の商（殷）から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

爵、觚、觶、長頸尊、觚形尊、斝、方彝、卣、瓿、罍、鼎、甗、鬲、簋、盨、豆、盤、匜、盉、壺、鐘、鈁、扁壺、蒜頭壺、竈、鍑、博山炉、鎮子、鐃、錞于など（すべて当館）

竈（当館）

## 【表紙写真解説】

# 土偶（どぐう）

土製
高一八・三cm
山形県遊佐町杉沢遺跡出土
縄文時代晩期（紀元前千年～前三百年頃）

東北地方で発達した遮光器（しゃこうき）土偶（ゴーグルを付けたような特徴的な顔の土偶）の一種。胴内は中空に作られ、へそ孔は内部に通じている。肩や腰には縄文とヘラで「工」字を連続させた文様を付けている。乳房や大きな腰の作りから、女性の姿を表わしたものと分かる。土偶は一般的には破片で出土するが、本品は昭和二十七年に石囲いの中に寝かせた状態で発見された。土偶信仰を考える上で貴重な資料である。

吉澤　悟（当館学芸部情報サービス室長）

仏像写真展

## ❖ 大和の仏たち ❖

－奈良博写真技師の眼－

～平成28年3月31日㈭

当館地下回廊にて　無料

博物館事業の一環として行われている文化財の撮影。今回の写真展では、その中から大和とその周辺地域に伝わった仏たちを、大型のパネルでご紹介いたします。写真で感じる仏像の魅力と、文化財写真撮影という博物館事業の意義をご理解いただく機会となれば幸いです。大迫力の仏たちに囲まれる至福の時。無料ゾーンですので何度でも足をお運びいただけます。

重要文化財 広目天立像 奈良・興福寺蔵
大迫力の大型写真パネル（縦2m×横1.5m）で展示しています。

## ❖ 公開講座 ❖

■特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」

4月18日(土)　「見返絵のある久能寺経について」
梶谷　亮治氏(当館名誉館員)

4月25日(土)　「平安時代の大般若経書写
―安倍小水麻呂願経を中心に―」
野尻　忠(当館学芸部企画室長)

5月9日(土)　「久能寺経と一品経」
松原　茂氏(根津美術館理事・学芸部長)

■特別陳列「名匠三代 ―木内喜八・半古・省古の木工芸―」

6月13日(土)　「木内省古の正倉院模造―木画紫檀双六局模造をめぐって―」
木村　法光氏(元宮内庁正倉院事務所保存課長)

◆各回とも午後1時30分より午後3時まで(午後1時より講堂入口で入場券を配付します)。定員194名。当館講堂にて。聴講無料。
入場の際には、それぞれ特別展「平安古経展」、特別陳列「名匠三代」の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。

## ❖ 第44回 奈良国立博物館 夏季講座 ❖

奈良国立博物館では、この夏に開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」を開催いたします。これに関連して今回の夏季講座では、「白鳳」という7世紀の半ばから710年の平城遷都までの時代の歴史と美術について、様々な研究分野の第一線でご活躍の先生方をお招きし、ご講演をいただきます。
特別展の観覧も含めて3日間の充実した連続講座です。どうぞ奮ってご参加下さい。

■「白鳳 －歴史と美術－」

開催日：平成27年8月18日（火）～20日（木）
主　催：奈良国立博物館
会　場：奈良県文化会館 国際ホール（近鉄奈良駅から徒歩約5分）
受講料：3,500円
＊会場費、テキスト代などを含みます。受講決定後に振り込んでいただきます。
定　員：600名
＊先着順。ただし定員数の8割を超えてから到着した分は、奈良国立博物館パスポートメンバーを優先とし、その他は抽選で決定いたします。
応募方法：往復はがきによる郵送に限ります。
＊往復はがきに「夏季講座参加希望」と書き、
［氏名（ふりがな）・住所・郵便番号・電話番号・性別・年齢］を明記して下さい。
奈良国立博物館パスポートメンバーの方は、カード番号もお書きください。
＊ 返信用はがきには宛名を記入してください。
＊ はがき1枚につき申込者1名としてください。
受付開始：5月18日（月）
＊受付開始日以前に到着したはがきについては無効とさせていただきます。
＊先着順で受け付け、受講番号と受講料振り込み先を記した返信用はがきをお送りします。
応募締め切り：7月7日（火）　必着
＊定員の8割を超えてから到着した分は、受入の可否を7月17日㈮までにご連絡いたします。

申込・問合先：〒630-8213　奈良市登大路町50
奈良国立博物館 教育室
TEL 0742-22-4464　FAX　0742-22-7221
＊ホームページで最新の情報をご覧いただけます。
http://www.narahaku.go.jp/

## ❖ サンデートーク ❖

4月19日(日)　「伝記絵を見る　聖徳太子絵伝を中心に」
北澤　菜月(当館学芸部研究員)

日本仏教の祖として早くから伝説化され、宗派に限らず信仰されてきた聖徳太子。その伝記は多数絵画化されました。今回は伝記絵の内容とともに、その機能やヴァリエーション、描き手などについても触れてみたいと思います。

5月17日(日)　「室町時代後期の當麻寺再興と宿院仏師」
山口　隆介(当館学芸部研究員)

戦国騒乱で衰微した當麻寺の再興には、宿院仏師の活躍がありました。近年、永禄元年(1558)の源三郎作と判明した曼荼羅堂の中将姫像を中心に、再興の軌跡をたどります。

6月21日(日)　「出羽の鏡像」
清水　健(当館学芸部主任研究員)

秋田・水神社に祀られる国宝・千手観音等鏡像をはじめとする旧出羽国(東北の日本海側)ゆかりの鏡像について、来歴や制作背景等を、現地調査の成果を踏まえてお話しします。

◆各回とも午後2時より午後3時30分まで(午後1時30分に開場)。
◆定員194名(先着順)。当館講堂にて。聴講無料。

## ❖ イベント情報 ❖

### 庭園で桜の観賞を

桜の開花時期に合わせて、展覧会観覧後に庭園を散策していただけます。

期　間：平成27年3月24日(火)～5月17日(日)
時　間：9：30～17：00
4月24日(金)以降の毎金曜日は18時まで
入場は閉園の30分前まで
※当日の観覧券等が必要となります。
※月曜日(5/4除く)・4/26・5/7は休園
※天候及びイベント利用等で開放中止の場合あり。

### 親と子のワークショップ

「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」(仮)

日　時：平成27年5月9日(土)(予定)
会　場：奈良国立博物館　地下回廊
※イベントの詳細については、決まり次第、当館ホームページにてお知らせいたします。

### ◆奈良国立博物館賛助会

平成27年3月31日現在、一般会員(個人)46名、一般会員(団体)18団体、特別会員4団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。

### ◆キャンパスメンバーズ

平成27年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。
大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学、京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都産業大学、京都産業大学附属高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都文教大学・京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学部
(以上、五十音順)

展示品のみどころ

## 観音菩薩立像

重要文化財
木造　彩色・漆箔・截金
像高166.5cm
平安時代（10～11世紀）
大阪　観心寺

空海の高弟実恵とその付法の弟子真紹により開創された観心寺は、如意輪観音像を秘仏本尊とする密教美術の宝庫である。同寺には、等身大の観音立像が6軀存するが、なかでも本像は洗練された作風と華麗な彩色が目を引く美作として知られる。

腹部から大腿部にかけて量感ゆたかな側面観や、着衣に刻まれた翻波式衣文は、平安時代前期の重厚な作風を継承する。一方で伏し目のおぼろな表情、柔軟な身のこなしと軽快な裙裾のさばき、一木造ながら深く内刳りをほどこす構造には、平安時代後期へとつながる要素があらわれている。像本体と共木からつくる丈高の円筒形宝冠や、三日月状を呈する腹前の短い折返しもふまえ、10世紀末から11世紀初めころの造立と考えたい。

色鮮やかな着衣もまた見どころであり、白下地に植物文や幾何学文を駆使した彩色文様を重ね、さらに裙の一部には截金で二重斜格子文を置く。こうした白下地彩色を基調としつつ部分的に截金を併用する手法は、奈良・新薬師寺十一面観音像や同・法隆寺夢殿安置の聖観音像にもみられ、やがて平安時代後期に一世を風靡する截金文様で着衣を埋め尽くす感覚とは明らかに趣を異にしている。大和に隣接する観心寺の地理的条件を考え合わせれば、本像の表面仕上げにも奈良地方の趣向が反映されている可能性があろう。

近年の調査で近赤外線撮影を実施したところ、宝冠正面に墨で描いた坐化仏が見いだされた。これにより、当初から観音菩薩像として造立されたことが、あらためて確かめられた。

山口 隆介（当館学芸部研究員）

◆～6月28日　名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

## 舎利厨子

木製　彩色
高12.1cm　最大径7.8cm
南北朝時代（14世紀）
大阪　施福寺

展示室で実物をご覧になった方は、その小ささと細工の緻密さに驚かれるに違いない。

本品は釈尊の遺骨とされる舎利を安置するための厨子で、舎利に擬した六角形の水晶製五輪塔が中心に安置される。これを四天王が囲んで護持する形式で、舎利が礼拝できるよう正面と側面に扉が取り付けられ、扉には舎利を供養する図などが、奥壁には釈迦が入涅槃（現世での死）の後に甦って母のために説法したという金棺出現の図が描かれている。礼拝の際には扉が開かれて舎利を讃歎供養する図が展開し、使用しないときには円筒形に小さくまとまる仕組みである。

本品は実は長らくばらばらの状態で伝わっていた。数年前に地元の美術館で行われた展覧会でも痛々しい姿で展示されることとなり、これを契機に修理の話が進展し、平成23年度に住友財団の助成を得て、当館学芸部の指導の下、美術院の手によって保存修理が実施された。

幸いほとんどの部材が失われることなく伝わっていたのだが、足りない部材もあり、それは今回補われた。正面向かって右の扉と、同じく四天王立像（持国天像）がそれで、持国天像は、それ自体礼拝の対象でもあることから彩色を施し、古色もつけて、他の像と同じように表現された。一見では補作であることがわからないほどなので、是非目を凝らして見比べていただきたい。

なお、用材の樹種の調査も行われ、本体部分は香木として知られるジンコウ（沈香）が使用されていることが明らかになった。従来濃密な香気を放っていたのだが、ようやくその正体がわかったのである。

部材が組み上がったため、奥壁画や天蓋部分の垂飾などが見えづらくなってしまったのは玉に瑕だが、やはり形あるものは、本来の姿こそが最も魅力的である。

清水　健（当館学芸部主任研究員）

◆4月21日～5月24日　名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

### 開館日時（4月～6月）

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・4月24日（金）以降の毎週金曜日は午後7時まで
※入館は閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日
（5月4日は開館し、5月7日（木）は休館）

■無料観覧日（名品展のみ）／5月5日（こどもの日）と5月19日（国際博物館の日）は、名品展の観覧料金が無料となります。

●：バス停

〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等（有料）をご利用ください。

### 観覧料金　特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」

| | 一　般 | 高校・大学生 | 小・中学生 |
|---|---|---|---|
| 個人（当日） | 1,200円 | 800円 | 500円 |
| 団体・前売 | 1,000円 | 600円 | 300円 |

※団体は20名以上です。
※前売券の販売は4月6日（月）まで。
※障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。
※特別展観覧券で名品展も観覧できます。

### 観覧料金　名品展・特別陳列

| | 一　般 | 大学生 | 高校生以下 |
|---|---|---|---|
| 個　人 | 520円 | 260円 | 無　料 |
| 団　体 | 410円 | 210円 | 無　料 |

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。
※青銅器館は無料です。
※なら仏像館は、改修工事のため休館中です。

奈良国立博物館
Nara National Museum

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円分の切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。

〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）ハローダイヤル 050－5542－8600　ホームページ（PC用）http://www.narahaku.go.jp/　（携帯用）http://www.narahaku.go.jp/mobile/